翼をありがとう

福島県骨髄バンク推進連絡協議会・会報

No.11
平成8年7月10日
■発行■
福島県骨髄バンク推進連絡協議会
会報編集委員会
いわき市好間町榊小屋字小畑133-3
㈱邑建築事務所内
TEL0246-36-3456 FAX0246-36-3538
■発行責任者■
陽田秀夫

第4回 定時総会より

ご挨拶

会長　太田緑子

本日は本協議会の第四回定時総会にあたり、会員の皆様には県内各地よりご参加を戴き感謝申し上げます。本協議会の平成七年度の活動の詳細は議事の中で報告されると思いますが、骨髄バンクに関する県内外の動きや主な活動についての報告を兼ねてご挨拶させて戴きます。

今年は、日本骨髄バンクの事業が開始されて五年目の節目の年となります。骨髄バンクによる非血縁の骨髄移植が七〇〇例を超えるなど骨髄バンク事業は順調に発展しておりますが、少し気になりますのは、ドナー登録が六万人を超えた頃から登録数が低迷し続けている事です。最近ようやく七万人を超えましたが五年で一〇万人の目標はかなり厳しい状況です。いまだに骨髄移植を希望しながら提供者に恵まれずに亡くなって行く患者さんが沢山いることを思うと居たたまれない気持ちであります。しかし、骨髄バンクの普及のための絶対的な切り札などあろう筈もありません。地道な草の根のボランティア活動が継続的に行なわれる事こそが、今の低迷した登録状況を打開する方法だと思います。とは言え、行政やマスコミの方々との連携によって効率的な広報活動を行なう工夫も重要でありましょう。幸い今年度は、福島県ご当局におかれましても骨髄バンクの普及啓発費を計上して戴いているようでございますので、お互い素晴らしい知恵を出し合ってより良い事業を展開できればと願っております。

さて、昨年の福島県骨髄バンク推進連絡協議会についてご報告いたしますと、何と言っても県南支部の設立が最大のビッグニュースであります。正式には昨年十二月五日の設立でありますが、小野支部長を中心に準備会の段階からかなり積極的に活動を展開して戴いております。現在県内で最もパワフルな支部と言えるでしょう。支部会員の皆様に心から感謝すると共に今後益々のご活躍を期待致しております。また、昨年六月には活動開始五周年事業として、いわきで大石邦子さんをお招きして「知る集い」と「あやちゃんの贈り物展」の開催を実現し多くの方々に素晴らしい感動を送る事が出来ました。十二月には保健所登録地域である郡山・原町・白河の三地区でリレー開催しました多田そうべいさんの「楽しく知る集い」は本当に楽しいイベントとなり、延べ五〇〇人以上の方々にご参加を戴くことが出来ました。同じく会津での「あやちゃんの贈り物展」と同時開催しました「金色のクジラ」の映画会と原作者の岸川悦子さんの講演会は、子供たちにも命の尊さについて感動をもって伝えることが出来たのではないでしょうか。毎年恒例になっております骨髄バンクを支援する会主催のチャリティバザーは、十一月に開催されましたが例年にない盛り上がりだったと聞いています。本当に毎年継続してのご支援に頭が下がる思いでございます。同じ十一月にサンクトフローリアン・トリオのご協力で開催しました骨髄バンクキャンペーンコンサートも第三回と回を重ねることが出来ました。

郡山でジャズコンサート等ユニークな試みも行なわれましたし、各地での健康まつり等イベントへの参加や献血へのご協力も毎年あたりまえに行なわれるようになっております。こうした私たちの活動が無事継続出来ますのも一般県民の方々のほかロータリークラブ、ライオンズクラブ、ソロプチミスト、ゾンタクラブ、青年会議所、医師会、ユネスコ協会等各種団体のご協力とご支援があって実現しているものでございます。心より感謝申し上げますと共にこうしたご支援に応えるには、私たちがより良い骨髄バンクが実現出来るよう汗を流して行くことなのだと認識致しております。まだまだ道なかばの骨髄バンクでありますので、今も提供者を求めながら必死で病気と闘っている患者さんを思い、会員一同心を新たにして平成八年度の事業計画のもと更なる活動の推進をお誓い申し上げたいと思います。

十分意を尽くせませんでしたが、骨髄バンクを応援して下さる全ての皆様に心より感謝を込め私のご挨拶とさせて戴きます。

平成八年五月二十六日

（総会の議事内容は四・五面に掲載）

〈エッセイ〉

戴帽によせて

県北支部　羽賀文子

今年一月十九日の戴帽式からまもなく半年が過ぎようとしています。現在看護学校二学年、臨床実習もたけなわの忙しいながらも学び多い日々を送っています。看護婦になりたいと感じたきっかけができたのは発病して一度目の入院時のことで、OL二年目の時でした。あれから三年半の月日が経とうとしています。

OL生活から看護学生への転身は、決してなだらかな道ではありませんでした。看学進学を考えた日から、会社で希望退職の話が出た昨年一月十九日、チャンスだっ！と即日返答で年度末までで退職することを決めた日までおよそ二年、体調の良い日ばかりではありませんでしたが、自分なりに考えて踏み切りました。幸い主治医の先生も進学を応援して下さり、会社の残務整理をこなしながら、現役離れて久しい受験勉強をし、まさかの合格、そして入学の運びとなりました。

看護学校での学習は量が多く大変でも、知識の幅が広がることが嬉しく、また、勉強できる状況に感謝しています。先日は社会科の講義で、自由題の論文を課せられ、私は骨髄バンクを題材に取り上げ、登録の呼びかけよりもまず「バンクへの正しい理解を」という内容を中心に、既習した血液学から、骨髄移植の必要性、バンクとはこんなところというような展開でまとめたところ、学内発表では良い評価を頂き、早速数名の方が登録して下さいました。

私は看護学もバンク活動もまだ知識が浅く、本質に触れるのはこれからかと思います。何かと難題も待ち受けているかも知れません。ですが、できるだけお力になりたいと思いますので今後もよろしくお願い致します。

Fukushima
福島県骨髄バンク推進連絡協議会
事務局／〒970-11 いわき市好間町榊小屋字小畑133-3
TEL0246-36-3456 FAX0246-36-3538

県北支部
〒960
福島市北沢又字樋越6-1(赤間方)
TEL＆FAX 0245・58・4040

会津支部
〒965
会津若松市門田町大字御山字村中334-1(青木方)
TEL 0242・83・0552

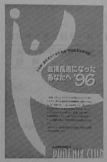
郡山支部
〒963-07
郡山市田村町金屋字上川原129-1(坂本方)
TEL＆FAX 0249・44・5762
大越連絡所(松崎方)
TEL 0247・79・2467

いわき支部
〒973
いわき市内郷御厩町久世原16
いわき市立総合磐城共立病院成分輸血室内
TEL 0246・26・3151
(内2284)

県南支部
〒978-04
石川郡浅川町大字大明塚6-1(花月庭園内)
TEL 0247・36・4646
FAX 0247・36・4649

「血液疾患になったあなたへ96」完成

フェニックスクラブ



病気になるというのはどんな病気にせよとても辛いことです。特に血液疾患は長期間病気と闘わなければならない疾患です。しかし白血病なども、今では多くの人に生きるチャンスが与えられるようになりました。このパンフレットは新しく患者となった方に対して、その方達よりたまたま早く発病し、現在も通院中だったり、一応「完治」した生活をおくっている「先輩患者」の生の声をもとに左記のような内容でまとめ作成されました。

一、お医者さんとどう接すればいいの？
二、お医者さんにどんな質問をしたらいい
三、ご家族の方へ
四、治療費や生活のこと
五、骨髄バンク運動について
六、フェニックスクラブの紹介

その他、「私の闘病生活」として七名の会員が自らの体験を紹介しています。

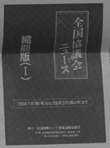
このパンフレットは、病気になって「どうしよう」と思っている方・ご家族の方に一人でも多く届けたいと思いますので、ご希望の方はお気軽にお申し込み下さい。なお、一般の方々にも一冊送料費込み三百円でお譲りしております。

問合せは　いわき支部　吉田まで
電話・FAX〇二四六−四四−三四九九

「全国協議会ニュース」縮刷版完成配布される

全国骨髄バンク推進連絡協議では、「全国協議会ニュース」の第一号（九十年七月）から第四十五号（九十六年三月）までをとりまとめ、縮刷版を作成しました。この縮刷版は、骨髄バンク設立前より現在までの動きを記録した資料集です。読み直してみるととてもなつかしい記事も盛り沢山です。

これは販売物ではありませんが、各加盟団体に数部ずつ配布されましたので、ご希望の方には貸し出しますので各支部にお申し込み下さい。体裁はA四版、一〇八ページ。



イベント予告

8月4日	会津鶴ヶ城まつり参加
8月18日	福島市JrオーケストラOBOGによる支援コンサート
8月18日	国際フォーラム 「骨髄バンクのネットワーク化」東京ビッグサイト
8月31日	骨髄バンクキャンペーン 「さとう宗幸まごころコンサート」矢吹町文化センター

「骨髄移植ガイドブック」発刊

東海大学医学部助教授加藤俊一氏によって、患者さんやそのご家族、ドナーとなられる方、そして一般の方々に骨髄移植や骨髄バンクについて正しく理解していただくためのガイドブックが作成されました。

ガイドブックには「骨髄と血液」「骨髄の病気」といった初歩的なことから「骨髄移植の原理」「ドナーの準備と骨髄採取」「無菌室と感染症」「退院後の生活」など十七項目にわたって解説があり、写真やイラストをふんだんに使っておりますので、大変わかりやすくなっています。

一冊千五百円で販売しておりますので、ご希望の方は事務局までお申し込み下さい。

心からのご寄付をありがとうございました

平成８年４月〜平成８年６月受付分

平成８年度

《本部受付分》

匿名	10,000円
太田総合病院	50,000円
太田緑子	50,000円
瓜田よう子	（ハ）81枚
柿並仙章	（ハ）20枚
〃	(切)1,000円
小松　薫	(テ)50×1枚

《郡山支部受付分》

郡山南ライオンズクラブ	50,000円
㈱寺健、寺田美智子	135,000円
ペンギンフォト、須貝芳雄	24,000円
誉田澄子	10,000円
清水照雄	4,000円
藁谷貴弘	3,901円
小貫亜紀子	3,000円
小貫亜紀子	（ハ）27枚
河美永	（ハ）４枚
河美永	(切)144円
小松薫	（テ）50×３枚

《県北支部受付分》

黒須堅二	（テ）50×３枚
〃	(ハ)2枚

《いわき支部受付分》

大平かよ子	1,000円
磐城共立病院募金箱	12,112円
齋金助	10,000円
石川建築	78,500円
山内クリニック	74,000円
磐城共立病院血液内科	20,000円
藁谷光子	5,000円
民謡藤英会	80,000円
君塚康二	50,000円
民謡藤英会発表会募金箱	9,348円
齋敏明	（ハ）20枚
いわき赤十字血液センター	
職員一同	（ハ）31枚
荒川光子	（ハ）19枚
陽田高広	（ハ）10枚
鈴木博文	（ハ）35枚
根本真弓	（ハ）62枚
いわき赤十字血液センター	
職員一同	(切)1,307円
根本真弓	(切)4,800円
藁谷光子	(切)1,788円

《会津支部受付分》

須佐正文	50,000円
三留育子	（切）500枚

（敬称　略）

訂正：前回号の寄付者名中の「佐藤淳」さんを「佐藤惇」さんに訂正させていただきます。

骨髄バンクのボランティア活動はすべて募金・寄付によって行なわれています。皆様のご支援をよろしくお願い致します。
［郵便振替口座番号］　02170－6－13321
加入者名義　福島県骨髄バンク推進連絡協議会

骨髄バンク事業の概要

（（財）骨髄移植推進財団発表）

ＨＬＡ適合患者、ドナーの状況　（平成８年６月６日現在）

患者の状況	
患者登録数（累計）	４、０９８人（福島県１、０２５人）
患者登録現在数	１、４５５人
ＨＬＡ適合患者数（累計）	２、８９５人

※患者登録現在数は、現在登録されている患者数（患者登録数（累計）から登録取消された患者数および移植実施患者数を引いた数）です。

ドナーの状況	
登録受付ドナー数（累計）	７７、８５８人
ドナー登録現在数	７２、５８３人（福島県５９人）
２次検査（ＤＲ座）実施ドナー現在数	５０、８３４人
ＨＬＡ適合報告ドナー数（累計）	１０、８９７人

非血縁者間骨髄移植実施数	７７４例

編集後記

患者やその家族になるのはある日突然やってくる。その日の為に心の準備をしている人はまず居ない。

日本の医療界におけるインフォームド・コンセント（説明と同意）はまだまだ。血液疾患においては他に比べれば比較的進歩的かも知れない。とても丁寧にインフォームド・コンセントに気を遣っている医師も少なくないからである。

主治医との信頼関係とコミュニケーションは患者の永い闘病生活の中で不可欠。と同時に患者自身が病気について正しく理解する為の学習も欠かせない。患者が前向きに「生きる」ための大切な準備作業と言えるのではないだろうか。

そんな中、今号で紹介したフェニックスクラブの「血液疾患になったあなたへ96」は先輩患者自身からのメッセージとして心強い。東海大学の加藤先生の「骨髄移植ガイドブック」も患者・家族向け医療情報。

全国協議会では七月十三日から毎週土曜日患者相談電話窓口を開設するという。相談相手となるのは先輩患者家族が中心。第二土曜日は専門医も待機。主治医に遠慮して相談できずに悩んでいる患者さんはぜひ相談してほしい。電話番号はフリーダイヤル〇一二〇−八九二−一〇六。

人との出会いやちょっとした情報との出会いが人生を大きく変えるきっかけになることもあると思っている。

（陽田）

全国骨髄バンクボランティア苫小牧大会96
第七回全国骨髄バンク推進連絡協議会総会に参加して

県北支部　赤間八郎

六月一日（土）～六月二日（日）北海道の苫小牧市で開催された「全国骨髄バンクボランティア苫小牧大会96」と第七回全国骨髄バンク推進連絡会協議会総会に福島県骨髄バンク推進連絡協議会から五名参加しました。これまで、東京・横浜・名古屋など大都市での開催でありましたが、今回は人口十七万人の苫小牧での実施となり、地方で初めての全国大会となりました。同じ地方で骨髄バンク運動に携わる者として期待して北海道に乗り込みました。

北海道の大地は、新緑の季節で絵葉書で見るような緑の牧場風景なども車窓から見ることができました。北海道は、ドナー登録では四月末で約五千人（福島県は約千人）と東京、大阪に次いで三番目にランクされるほど骨髄バンクへの関心が高いところです。北海道には三つのボランティア団体があり、今回はそのうちの一つ「苫小牧骨髄バンク推進会」が実行委員会となり準備にあたりました。今年で創立五周年と私たちの団体とほぼ同じころに設立されていることにも近親感を抱きました。（創立三周年の時は、大石邦子さんを招いて講演会もされています。）

大会の一日目は、苫小牧市民会館で約千人の出席のもと陽田秀夫全国骨髄バンク推進連絡協議会運営委員長の開会の辞で始まり、北海道知事・苫小牧市市長などの来賓挨拶のあと骨髄バンクを題材にした児童図書・アニメーション映画「金色のクジラ」の原作者岸川悦子さんの講演がありました。本当の優しさ・他人の立場に立って考えることのできる豊かな創造力の大切さを諄々とお話しされ、初め少しざわついていた高校生も真剣に聞いているのが印象的でした。また、アニメーション映画「金色のクジラ」が上映されこれまでビデオで観たのとは違った感動を味わいました。二日目は、同会場で同じく岸川悦子さん原作「私、五等になりたい」のアニメーション映画の上映がありました。日曜日でしたので一日目とは違って親子連れの観客が多く、人としての本当の優しさに熱い感動の涙を流していました。

全国骨髄バンク推進連絡協議会第7回通常総会

その後私たちは五月三十一日から六月五日まで苫小牧市のデパートで開催されている「あやちゃんの贈り物展」に行きました。八、〇〇〇枚の絵を残し白血病で七歳九ヵ月で逝ったあやちゃんの絵に昨年いわき市で観て以来一年ぶりに再会出来ました。この会場でも苫小牧骨髄バンク推進会のボランティアの人達が運営にあたっていました。今回の大会に出席して、私たちと同じような地方都市でこんなにも充実した活動がされていることに北海道でドナー登録者が多い要因の一端を見た思いがしました。

また、第七回全国協議会の総会は大会一日目午後、苫小牧市民会館で遠くは九州からの団体代表をはじめ約八十名の全国各地からの人々が参加して開催されました。ドナー登録者数が最近伸び悩みの傾向となっている中で全国のボランティア団体がどんな活動をすればよいか、そのためには全国協議会は九十六年度に何を計画実行すべきか等について熱心に意見が交わされました。また、役員の選任が行われ私たちの協議会の運営委員長でもある陽田秀夫さんが運営委員長に再選されました。毎月発行される会報「全国協議会ニュース」で名前だけは知っていた運営委員の方々や全国各地の人々とも交流することが出来ました。各地で骨髄バンク運動をしている多くの方から話を聞くことが出来て改めてエネルギーを補充出来た気がします。来年度の全国ボランティア大会は、新潟県で開催されることになりました。隣の県ですのでバスを貸し切ってでも大勢の皆さんで参加しましょう。

「微笑がえし」を読んで

秋田県　佐藤絵美（高二）

「微笑がえし」という言葉。本当に優しい、素晴らしい言葉だと思います。この本に登場される方々から、人と人との出会いの素晴らしさ、家族愛、そして人間の本当の優しさと強さを私は教わりました。

ごく普通に、それまでは平凡な生活を送っていた皆さんが、なぜ白血病という大病に冒されてしまったのか。「白血病なんていう病気がなければいいのに。」こんな事を考えるときがあります。しかし、自分自身が病気であるという現実を冷静に受け止め、これからどのように生きてゆくべきか。どのようにして病気を克服していくか。心の中での葛藤は計り知れないほどの苦しいものだったのでしょうが、病気になった運命に絶望せず、決してそれに目をそらすことのなかった皆さんのひたむきな姿は、〝生きている〟そのものでした。

「残された日々、一生懸命生きたい。そう、私には準備期間がある。若くて、事故で一瞬に命をなくしてしまう人だっていっぱいいる。そういうかなしい運命の人から見たら、まだまだ幸せ…。」陽田茂子さんの日誌の一部です。

過酷な治療と不安の中でも、生きることに対し、こんなに大きな希望をもった茂子さんの心の強さを知り、健康な体の自分の漠然とした心の甘さに、私はハッと気づかされたように思います。また、家族想いで、誰に対しても温かい心を持ち微笑みかけていた茂子さん。自分自身が持っている苦しみや辛さを他の患者さんの中にも認め、そして骨髄バンク運動にも積極的に参加する姿に胸を打たれました。

骨髄バンク運動を全国的に広め、ドナー募集のための活動の実行を考えた陽田さん、鈴木さん、三瓶さん御一家の決意は、現在の充実した骨髄バンク運営に、確実に通じた重要なものだったと思います。しかし、自らの手で身近な範囲から活動を展開していくことはとても容易なことではなく、バンクが社会的に理解されるまでの皆さんのご苦労は以前より、ずっと身近なものとしてとらえられることが多くなったと思います。そして、実際に移植を受け、健康を取り戻した患者さんがたくさんいます。この発展は皆さんの努力なしでは達成できなかったものです。ですから私もこれまでの皆さんの努力を忘れず、ボランティア活動をできることや、たくさんの方々と出会えることに感謝しなければならないと痛感しています。

皆さんと病気との闘いから、「生きる」ということはもちろん、「人間の生き方、幸せ」について深く考えさせられました。「人間は誰でも平等にできている」などと言われるのを聞いたことがありますが、病気で苦しむ皆さんと、健康な自分の姿をどうしても比較してしまって、「これは不公平なんじゃないか。」と考えたりもしました。しかし、漠然として生きている私も含め、「あれも欲しい、これも欲しい」と言って自分の欲望だけにとらわれ、ただ楽しいだけの生活を送る生き方こそ、本当の幸せとはいえないと思います。辛い運命を迎えたとしても、それに立ち向かい、闘いぬく心をもった人の方がずっと魅力的で、人間らしい豊かな心を持てると私は思うのです。

この本から、登場された方一人一人の骨髄バンクに対する熱い想いと、生き方が伝わりました。皆さんの心の強さが、私の励みになりました。最後になりましたが、天国の陽田茂子さん、鈴木さんたちの優しい微笑を思い出し、これからも新たな気持ちで骨髄バンク運動に参加していきたいと思います。そして、「自分の幸せを他人に分けてあげたい。」と思って下さる方が増えるよう、願っています。

福島県内ドナー登録施設案内

地　区	受付場所	登録受付日時	住　所
福島地区	福島県赤十字血液センター内	毎週(月)～(金) 9:00～16:00	〒960 福島市渡利字北の内28 ☎0245(22)9266
会津地区	会津赤十字血液センター内	毎週(月)・(水) 9:00～16:00	〒965 会津若松市一箕町大字八幡字門田1-2 ☎0242(24)6650
いわき地区	いわき赤十字血液センター内	毎週(火)・(木) 9:00～16:00	〒970 いわき市中央台飯野5丁目1-1 ☎0246(29)5624
郡山地区	郡山保健所	毎週(月) 13:00～16:00	〒963 郡山市麓山1丁目1－1 ☎0249(35)1504
県南地区	白河保健所	毎週(水) 9:00～11:30	〒961 白河市字郭内127番地 ☎0248(22)5441
相双地区	原町保健所	毎週(月) 9:00～11:30	〒975 原町市錦町1丁目30 ☎0244(26)1324

※登録の際は電話で御予約の上おでかけ下さい。

※まずは登録用パンフレットをご請求下さい。1面の協議会事務局、各支部又は(財)骨髄移植推進財団 ☎0120-377-465まで 県医務福祉課（0245-21-7221）および県内各保健所にも登録用パンフレットがあります。

第四回　定時総会報告

日時　平成八年五月二十六日　午後十四時より

場所　郡山市勤労者総合福祉センター

平成7年度　事業報告

平成7年

- 4・9　県北支部運営委員会
- 4・14　いわき支部定例会
- 4・15～16　全国骨髄バンク推進連絡協議会（以下全協とする）五周年記念大会及び代表者会議（名古屋・陽田他三名参加）
- 4・16　郡山支部定例会
- 4・22　福島県骨髄バンク推進連絡協議会（以下県協とする）運営委員会（郡山市総合福祉センター）
- 5・5　郡山市開成山子供まつりでチラシ風船配布PR（郡山）
- 5・19　いわき支部定例会
- 5・21　全協運営委員会（東京）
- 5・21　郡山支部定例会
- 5・26　いわき平中央ロータリークラブ訪問、寄付を受ける（陽田）
- 5・27　県協運営委員会（郡山市総合福祉センター）
- 5・31　献血推進実行委員会（坂本参加）
- 6・9　いわき支部定例会
- 6・14　平成六年度会計監査（菅家経営センター事務所）太田会長に年度報告
- 6・16～20　あやちゃんの贈り物展（活動開始五周年記念事業・いわき）
- 6・17　県協第三回定時総会（いわきしゃくなげ会館）活動開始五周年記念講演　講師大石邦子さん他
- 6・18　全協総会及び代表者会議（東京）（太田会長・陽田・坂本参加）
- 6・20　（社）勿来青年会議所市民公開例会　講師大谷貴子さん
- 6・25　郡山支部定例会
- 7・1　「国際ソロプチミストチャリティ講演会」にて寄付を受ける（いわき）
- 7・2　郡山支部臨時定例会
- 7・5　愛の献血助け合い運動統一キャンペーン（坂本参加）
- 7・7　「福島市ジュニアオーケストラ骨髄バンク支援コンサート」の打合せ（福島・赤間参加）
- 7・22　骨髄移植推進財団ボランティア意見交換会（東京・陽田参加）
- 7・23　全協運営委員会（東京・陽田参加）
- 7・27　福島市民健康祭り打合せ（福島市・赤間参加）
- 8・20　全協運営委員会（東京・陽田参加）
- 8・20　郡山支部定例会
- 8・25　いわき支部定例会
- 8・26　県協運営委員会（郡山市総合福祉センター）
- 9・2　JC東北地協フォーラム骨髄バンク講演会（横手市・講師大谷貴子）
- 9・2～3　全協東北・北海道ブロックボランティアセミナー　県内各支部より八名参加（秋田県横手市）
- 9・7　いわき平ロータリークラブで卓話（吉田麻里）
- 9・7　保健福祉フェスティバル郡山'95実行委員会
- 9・9　やまがたの会学習会（陽田参加）
- 9・9　ジャズコンサート（郡山支部）
- 9・12　ハートフルサンデー一〇七打合せ郡山保健所（赤間・坂本参加）
- 9・16～17　福島市民健康祭り（福島市体育館）
- 9・17　郡山支部定例会
- 9・22　いわき支部定例会
- 9・30　県協運営委員会（福島医大カンファランス室）
- 10・1　全協運営委員会（東京・陽田参加）
- 10・1　大越町健康祭り（坂本・佐藤参加）
- 10・1　塩川町健康祭り（会津）
- 10・5　書籍「微笑がえし」発刊
- 10・6　五島健司写真展にて骨髄バンクPRコーナー設置～12・6（福島県立図書館）
- 10・7　福島県立医大医学祭記念シンポジウム「骨髄バンクとは」（パネラー齋敏明先生・陽田・吉田）
- 10・7　ハートフルサンデー一〇七献血運動参加（坂本他郡山支部参加）
- 10・10　12月イベント共催の県医務福祉課打合せ（赤間参加）
- 10・10　会津若松大町通り歩行者天国で出店PR（会津）
- 10・10　会津坂下町健康祭り（会津）
- 10・16　県医務福祉課打合せ（陽田）
- 10・20　いわき支部定例会
- 10・21　関西骨髄バンク推進協会アジア太平洋骨髄バンクフォーラム（大阪・陽田参加）
- 10・22　全協運営委員会（大阪・陽田参加）
- 10・22　保健福祉フェスティバル郡山'95（坂本他郡山支部参加）
- 10・25　県南支部設立準備会（白河）「骨髄バンクを楽しく知る集い」県南運営委員会（〃）
- 11・4～5　福島大学祭にて「福大生ボランティア」によるバンクコーナー設置（赤間・斎藤参加）
- 11・8　県南支部設立準備会及「骨髄バンクを楽しく知る集い」準備打合せ（ホテルサンルート白河）
- 11・11　骨髄バンクキャンペーンコンサート・ピアノ三重奏の夕べ　サンクトフローリアン・ピアノ三重奏団（いわき医師会　准看護学校大ホール）
- 11・12　盛岡ロータリークラブ三三二〇地区インターミーティング「骨髄バンクシンポジュウム」（講師　陽田・吉田麻里　盛岡市）
- 11・15　骨髄バンクを支援する会主催チャリティーバザー&コンサート・講演会　講師大石邦子さん（いわきしゃくなげ会館）
- 11・19　棚倉町ふれあいフェスティバルに参加PR（郡山支部・いわき支部より参加）
- 11・24　保健福祉フェスティバル郡山'95反省会（坂本参加）
- 11・24　いわき医師会准看護学校の社会科の授業にて骨髄バンクについて話す（講師陽田）
- 11・24　いわき医師会主催いわき市民公開講座でPRコーナー
- 11・25　県協運営委員会（福島医大カンファランス室）
- 11・26　全協運営委員会（東京）
- 11・28　第九回ボランティアの集い実行委員会（坂本参加）
- 12・3　県共催「骨髄バンクを楽しく知る集い」講師多田そうべいさん（郡山視聴覚センター）
- 12・4　〃（原町市福祉会館）
- 12・5　〃（ホテルサンルート白河）
- 12・5　県南支部設立総会（ホテルサンルート白河）
- 12・6～10　会津ユネスコ協会幼児画展と共催で「あやちゃんの贈り物」展　骨髄バンク親子映画会及び講演会　講師岸川悦子さん（会津若松市）
- 12・16　骨髄移植推進財団主催「骨髄バンク推進全国大会」（東京・陽田参加）
- 12・17　全協代表者会議（〃）

平成8年

- 1・15　日赤「二十歳の献血キャンペーン」に協力街頭呼びかけ（いわき駅前）
- 1・19　いわき支部定例会及び新年会
- 1・21　全協運営委員会（東京・陽田参加）
- 1・28　ラジオ福島「微笑がえし」放送
- 2・4　JC福島ブロック協議会新春講演会（郡山）　講師岸川悦子さん　パネリスト陽田・吉田・JC白石さん
- 2・14　県南支部運営委員会・ミニ講演会（講師陽田秀夫）
- 2・16　いわき支部定例会
- 2・17　県北支部運営委員会
- 2・18　全協運営委員会（東京・陽田参加）
- 2・22　医薬品配置事業協会総会にて骨髄バンク講演（講師陽田、いわき新舞子ハイツ）
- 2・23　TUFテレビ番組「まる得情報」生出演でPR　ラジオ福島アナウンサー大和田新・関根政雄・吉田麻里さん
- 2・24　平成七年度厚生省骨髄移植調査研究事業公開シンポジウム（東京・坂本参加）
- 2・25　全協主催シンポジウム（大阪・陽田参加）
- 3・10　郡山ボランティアの集い（郡山）
- 3・15　いわき支部定例会・血液センター参加勉強会　講師磐城共立病院血液内科部長　齋敏明先生
- 3・17　全協代表者会議（東京・陽田参加）

ねむっていませんか?切手・はがき

書き損じのはがき・使う予定のない切手・はがきをくださいませんか

骨髄バンク運動に有効利用します

福島県骨髄バンク推進連絡協議会☎0246・36・3456

(送り先) 1面記載の事務局又は最寄りの支部へお送り下さい。

平成８年度事業計画（案）

1．公的骨髄バンクへの事業協力
①（財）骨髄移植推進財団主催の各種事業への参加
②骨髄バンク推進月間における事業推進
③自治体が主催する各種イベントに対する事業協力
・県主催シンポジウム（二回）への協力
・県主催キャラバンへの協力
・各市町村健康福祉祭り等への協力
④保健所の登録受付開始のPR活動

2．骨髄移植医療施設充実のための各種活動
①行政・医療機関等への要請活動
②全国骨髄バンク推進連絡協議会が行う医療施設充実のための運動と連携

3．各市町村及び民間企業へのドナー休暇制度の要請活動

4．関連他団体との意見交換、交流及び事業協力
①全国骨髄バンク推進連絡協議会、東北骨髄バンクボランティア連絡協議会等の事業への参加・協力
②RC、LC、JC、ソロプチミスト、ゾンタクラブ、ユネスコ協会、大学等他団体が行う事業への協力

5．県内未組織地域での組織づくり（相双支部設立を働きかける）

6．県民に対する正しい知識の普及啓発のための事業
①シンポジウム・講演会・勉強会などの開催
②絵画展・写真展・パネル展等の開催
③会報の発行・ポスター類の提示・看板設置等
④パンフレット立ての設置要請（団体、企業等）チラシ、リーフレット等の配布
⑤関係図書の販売寄贈・テレホンカードや絵葉書等の販売を通じてのPR
⑥県・市町村等の広報紙を通じてのPR

7．献血事業等への協力

8．内部学習会の開催
①各支部定例会等での学習会
②合同学習会の開催
③全国協議会セミナー等への参加

9．募金活動
①テレホンカード・絵葉書等の販売
②チャリティバザー・チャリティコンサート等の開催

10．その他

平成７年度決算報告・各支部明細書

平成７年４月１日～平成８年３月31日

項　目	県北支部	郡山支部	会津支部	いわき支部	県南支部	本　部	本部・支部合計	平成7年度決算額
［収入の部］								
1募金・寄付	86,710	151,136	103,480	908,435	48,000	2,339,356	3,677,117	3,677,157
2事業収入	78,830	599,995	419,740	634,460	42,340	3,529,140	5,304,505	5,304,505
3会　費	0	0	32,000	0	0	0	32,000	32,000
4補助金・助成金	206,400	40,000	0	0	0	300,000	506,400	506,400
5共同募金配分金	300,000	0	0	0	0	0	300,000	300,000
6雑収入	1,185	627	118,192	934	17	551	121,506	121,506
（○○支部より）7支部間振替	0	0	0	本部 371,914	本部 100,000	県北会津いわき 3,314,943	3,786,857	
8繰越金	1,164,968	680,804	1,573,297	1,481,037	0	0	4,900,106	4,900,106
合　計	1,838,093	1,472,562	2,246,709	3,396,780	190,357	9,483,990	18,628,491	14,841,634
［支出の部］								
1通信費	231,106	239,657	27,822	476,962	27,700	213,350	1,216,597	1,216,597
2旅費交通費	89,091	57,790	4,000	13,513	0	339,027	503,421	503,421
3印刷費	123,790	0	0	0	0	2,072,669	2,196,459	2,196,459
4事業費	21,180	599,594	750,641	218,819	78,364	5,877,721	7,546,319	7,546,319
5事務費	29,054	9,325	6,083	51,302	0	26,507	122,271	122,271
6会議費	6,440	15,160	13,604	40,000	0	62,058	137,262	137,262
7負担金	0	0	0	87,726	0	156,000	243,726	243,726
8雑費	36,198	118,532	13,855	23,595	7,500	222,273	421,953	421,953
（○○支部より）9支部間振替	本部 650,000	0	本部 500,000	本部 2,164,943	0	県南いわき4 71,914	3,786,857	
10次期繰越金	651,234	432,504	930,704	319,920	111,993 未払金△35,200	42,471	2,453,626	2,453,626
合　計	1,838,093	1,472,562	2,246,709	3,396,780	190,357	9,483,990	18,628,491	14,841,634

私たちは、福島県骨髄バンク推進連絡協議会の平成７年度に於ける会計決算報告書を関係書類と共に監査しました。
総て、妥当かつ正確であることを認めたので報告します。

平成８年５月18日

福島県骨髄バンク推進連絡協議会　監事　岩城汀子
福島県骨髄バンク推進連絡協議会　監事　菅家惣右衛門

平成８年度役員・運営委員

会長　太田緑子（再）
副会長　渡部英一（再）　監事　菅家惣右衛門（再）
副会長　田中長蔵（再）　監事　岩城汀子（再）

運営委員

県北支部所属11名
赤間八郎（再）
安斉のぶ子（再）
梅津美紀子（再）
梅津聖豊（再）
金澤壮一（再）
木下満喜子（再）
五島健司（再）
斎藤江美子（再）
清水啓（再）
羽賀文子（新）

郡山支部所属　14名
坂本豊和（再）
坂本あけみ（再）
佐藤高始（再）
松崎秀吉（再）
小松薫（再）
白石高司（新）
遠藤幸恵（新）
市村善雄（新）
刀根美紀子（新）
宗像住孝（新）
永井弘純（新）
井上良子（新）
清水照雄（新）
藁谷春江（新）

相双地区　1名
金子洋一（新）

いわき支部所属８名
陽田秀夫（再）
鈴木博文（再）
橋本有広（再）
清水美智恵（再）
吉田麻里（再）
鈴木幸子（再）
志賀正弘（新）
渡辺万里子（新）

会津支部所属　5名
青木英子（再）
斎藤省三（再）
成田司（再）
福田静子（再）
古川洋一（再）

県南支部所属　13名
小野利広（新）
関根政雄（新）
斎藤浩一（新）
酒井正喜（新）
鈴木清次（新）
須藤博之（新）
橋本秀也（新）
緑川賢一（新）
宮川政夫（新）
吉田譲（新）
渡辺正晃（新）
根本正勝（新）
緑川摂生（新）

平成８年度予算（案）

平成８年４月１日～平成９年３月31日

収入内訳（単位：円）

項　目	金　額	備　考	前年度予算額
1募金・寄附	4,000,000		3,000,000
2事業収入	1,000,000	チャリティ等	2,800,000
3販売収入	2,000,000	テレカ・絵葉書・書籍売上	
4会費	30,000	会津支部賛助会費	60,000
5補助金・助成金	2,000,000	健康まつり等の自治体からの補助金等	420,000
6共同募金配分金	300,000		300,000
7雑収入	16,164	利息等	19,894
8前年度繰越金	2,453,836		4,900,106
合　計	11,800,000		11,500,000

支出内訳（単位：円）

項　目	金　額	備　考	前年度予算額
1通信費	1,500,000		1,2000,000
2旅費	500,000		600,000
3印刷費	2,000,000	全国協議会の会報他	1,200,000
4事業支出	3,500,000	チャリティ事業費他	2,500,000
5販売品購入費	1,500,000	書籍等購入費	
6事務費	100,000		150,000
7会議費	200,000	定例会・運営委員会等	350,000
8負担金	250,000	全国協議会の会費他	170,000
9雑費	400,000		270,000
10イベント開催準備金	1,700,000	シンポジウム等	4,900,000
11予備費	150,000		160,000
合　計	11,800,000		11,500,000

お帰りなさい！志賀さん

志賀正弘さん　闘病対談　吉田麻里さん

四コマまんがDｒ．サイくんの作者でお馴染みのマサオ君こと、いわきの志賀正弘さんが骨髄移植を無事に終えて帰ってまいりました。今回はその退院をお祝い致しまして、同じ骨髄移植を行なった少々先輩である吉田麻里が志賀さんへの独占インタビューを行ないました。

志賀さんは平成五年一月、急性骨髄性白血病を発病しいわき市立磐城共立病院に入院しました。化学療法が効き、その後退院をしましたが、平成七年四月に再発し入院、平成八年春に非血縁者間で骨髄移植を行ないました。

吉田・白血病になったと知った時は？

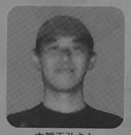
志賀・そうですね、驚きましたよ。でも発病の時より再発した時の方がショックでしたね。治療もすんで体調も安定し落ち着いていたから…。

吉田・骨髄バンクに登録をしたのはいつ？

志賀・再発した時に登録をしました。しかし骨髄移植を受けるということに正直言って不安や迷いもあったけど、身近に麻里ちゃんという元気な見本がいたし、自分もそうなりたい、そうなるんだと思って移植を決意しました。

吉田・私が大谷さん（大谷貴子さん）に会って、この人のように元気になるんだと思ったのと一緒ですね。さて、いよいよ移植となったのですが、一番辛かったことは何でした？

志賀・やはり前処置の時の強い吐き気かな。でも自分にとってはこういった肉体的な辛さよりも精神的な辛さのほうが強かったですね。



志賀正弘さん

吉田・例えばどんなことですか？

志賀・移植を前にしての最後の外泊の時、病院に戻って来て玄関を入る時に、この扉の向こうに入ったらもう二度と出られないんじゃないかって思ってしまい、ものすごく不安になりました。

吉田・いよいよ骨髄移植となって、ドナーの方から骨髄液が届いた時はどんな気持ちでした？

志賀・あ～これで治るんだって思いましたね。でも、これから何が起こるか分からないという不安もありました。

吉田・そうですよね。移植の時って嬉しさと不安が紙一重ですものね。ところで血液型は変わりましたか？

志賀・変わりませんでした。

吉田・私もドナーの方と血液型が同じだったので、血液型が変わると性格も変わるのか聞きたかったんですよ。お互い残念でしたね。（笑）

吉田・無菌室の中ではどんなことをしていました？

志賀・体調が落ち着いてからはよくテレビを見ていましたね。特に料理番組はたくさん見ましたよ。家に帰ったらこれを作ろうとか、あれを食べようなどと考えながらまさに食い入るようにテレビを見ていました。

吉田・無菌室の中で誰もが考えるマニュアル通りの行動ですね。で、何か作ったんですか？

志賀・いえ、まだ…。でも時間があるから作る予定はあります！本当ですよ！

吉田・でもほんとに、元気になって帰ってきてくれて私もとっても嬉しいです。近くにまた一人元気になった人が増えたんですから。

志賀・今のところGVHDも出ていないし、食事も生ものの以外は食べても大丈夫になりました。こんなに元気になれたのもドナーの方のおかげですよ。退院の日がぼちぼち決まりかけた頃、ドナーの方に感謝の気持ちを綴った手紙を書きました。

吉田・私も書きましたが、このとてつもない大きな感謝の気持ちを文章にして書くということは、非常に難しいですよね。私なんか、なかなか納得がいく文が書けず、何度も書き直して結局3ヵ月もかかってしまいました。どんなにお礼が言いたくてもドナーの方とは直接会うことも、どこの誰なのかも知ることが出来ないから、手紙を渡してもらえることがドナーの方に感謝の気持ちを伝えられる唯一の機会ですよね。

志賀・ドナーの方には感謝しても感謝しきれないですよ。

吉田・話しは変わりますが、昨年志賀さんはフェニックスクラブに入会しましたが、志賀さんにとってのフェニックスクラブとは？

志賀・不安や悩みなどはこれからもつきることはないと思うんです。そういったことは普段なかなか話せないけど、フェニックスクラブには自分と同じ立場の人達がたくさんいるから、素直に自分の気持ちを話すことが出来るんですよね。病気の時期や病名、住む場所は違っても同じ〝時〟を過ごしたという想いが強くあるんです。初めて会った人とも昔から知っている様な感じで会えるし、先輩達からはアドバイスも受けられるし、悩んでいる人困っている人には自分の答えられる範囲でアドバイスもできると思うんですよ。やはり患者には患者でしか分からない部分もありますしね。

吉田・私もそう思います。私にとってのフェニックスクラブは心のオアシスとでもいった存在かな。日常生活でたまった心の疲れをみんなに癒してもらい、軽くなってまた普段の生活に戻って来る。みんなからパワーをもらってくるんですよ。

特に大谷さんのパワーは威力（！）あるから志賀さんも全身で吸収するように心がけたほうがいいですよ。

志賀・なんか、逆に大谷さんに吸い取られそうだな…。（笑）

吉田・現在通院はどうしているの？

志賀・東京の病院と共立病院それぞれ月に1回づつ通院してます。

くすりも早く終わればいいなと思っています。

吉田・お互い焦らずのんびりと頑張って行きましょうね。

吉田・最後に会報を読んで下さっている皆さんに一言ありましたらどうぞ。

志賀・皆様の暖かいご声援のおかげで、無事元気に帰ってくることが出来ました。自分にはドナーが見つかり骨髄移植を受けることが出来ましたが、移植を希望していながらドナーが見つからず待ち続けている患者達がたくさんいます。ドナー登録者が一人でも多く増え、一人でも多くの移植希望患者に移植が出来るようになることを願っています。それから、今後は骨髄バンク運動にも進んで参加して行くつもりです。

吉田麻里さん

吉田・その他に何か目標はありますか？

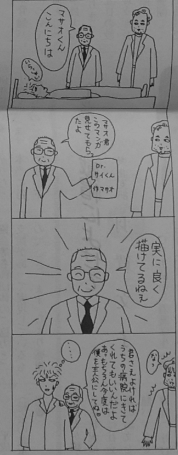
志賀・一番の目標はやはり社会復帰ですね。病気になる前のような普通の生活、自分に自信の持てるような生活に早く戻りたいです。そして、これまで自分が誰かを目標にしてきたように、自分もこれから移植をする人達の目標となれるよう頑張っていきます。

吉田・最後に志賀さんから皆さんへお知らせがあるそうですが。

志賀・はい、皆様にはこれまでDｒ．サイくんを読んで頂きまして有り難うございました。誠に突然なのですが、今回の№10号をもちましてマンガの方はしばらくの間お休みをさせて頂きます。これまでご声援下さった皆様本当に有り難うございました。

吉田・とても残念ですが、また志賀さんのマンガが見れる日を楽しみにしています。今日は長い時間おつきあい頂きまして有り難うございました。

（スカウト）


マサオくんこんにちは
マサオ君このマンガ見せてもらったよ
Dr. サイくん 作マサオ
実に良く描けてるねぇ
なっ
……
君さえよければうちの病院にきてくれてもいいんだよ あっもちろん今度は僕を主人公にしてね。